
忘れてはいけない

遊崎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

忘れてはいけない

【NZコード】

NZ897J

【作者名】

遊崎

【あらすじ】

人は何か忘れてはいけないものがあるとき、他のものを、他のことを殺すのです。

西尾維新著、戯言シリーズに感化されている部分がありますので、わたくしの作品、西尾維新氏の作品に嫌悪感を抱かれる方には、ブラウザバックを推奨します。

力を失い、掴んでいたものを離してしまったこの手。
かしゃん、からからから・・・

それが床を滑つて行く。

苦しいものからは解放されるだろう、けれど。

忘れてはいけない、覚えておかなければ。

僕を愛してくれる人がいる、僕を必要としてくれる人がいること。

そんなことをうすぼんやりとした頭で思考していたら、鳩尾あたりみぞおち

を思い切り蹴られた。

でも、諦めるわけにはいかない。

忘れるわけにはいかない。

僕が死ねば、僕が愛している人の何人かはとても悲しむだろう。
僕が死ねば、僕が嫌悪する人の何人かはとても喜ぶだろう。

そんな訳には、いかない。

すきすきする右腕に鞭打ち、僕は落としたものを拾つ。

それは忘れてはいけないもの

「これで、終わらせる」

きっと僕が言つたんだろう、そんなことも満足に判別できないなんて、まったくどれだけ一方的に章魚殴りたこなぐにされたことやら。

拾つたそれの照準をあいつに合わせ、ハシマ撃鉄を起します。

僕の持つた銃が、あいつへと向く。

ばあああん

聞きなれた発砲音が、響く。

どさり、と何か重いものが着地する音がした。

何かなんて言つまでもなく、あいつの死体なんだけれど。

さよなら。

僕はこれから愛する人たちの下へ帰る。

お前に帰る場所はない。

お前を殺して、僕は

fin

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9897j/>

忘れてはいけない

2010年10月9日21時15分発行